

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年10月22日（水）

2 確認箇所

- ・瓦礫類一時保管エリアN（図1）
- ・構外ヤード（図1）

3 確認項目

- （1）瓦礫類一時保管エリアNの状況
- （2）1号機原子炉建屋大型カバー組立て工事の状況

4 確認結果の概要

（1）瓦礫類一時保管エリアNの状況

東京電力は水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外における一時保管を令和10年度中に解消することを目指している。その一環として、瓦礫類一時保管エリアN（以下「エリアN」という。）においてノッチタンクに保管されている汚染土壌^{*}を別の保管容器に入れ替え、固体廃棄物貯蔵庫へ運搬する計画としている。

6月末からエリアNでの作業が開始されたことを受け、県では入れ替え作業の状況を適宜確認している。本日も、作業の進捗状況や安全対策の実施状況等について確認を行った。（前回確認：令和7年9月25日）

- ・エリアN南西側において、ノッチタンク内の汚染土壌が入った土のう袋を吊り上げ、別の保管容器へ移す作業が実施されていた。（写真1）
- ・汚染土壌の入れ替え作業に伴い、作業員がノッチタンク上部に上がって作業を行っていた。ノッチタンクには、手すりや下さん^{*2}が設置される等、作業員の転落及び資材の落下防止対策が講じられていた。また、作業員は、墜落制止用器具を着用して作業に従事していた。（写真2）
- ・汚染土壌の入れ替えに使用しているクレーンは、平坦で安定した場所に設置されており、アウトリガーの張り出しも適切に行われていた。確認した範囲では、作動油の漏えい等の異常は認められなかった。（写真3）
- ・確認した範囲において、ノッチタンクからの内容物の漏えい等は認められなかった。（写真4）

※1 平成25年及び平成26年に発生したタンクエリアからの汚染水漏えいにより汚染した土壌。これらの土壌は土のう袋に回収され、ノッチタンクに入れて保管されている。

※2 作業員の転落や資材の落下を防止するため、足場の床の外縁に取り付ける板材

(2) 1号機原子炉建屋大型カバー組立て工事の状況

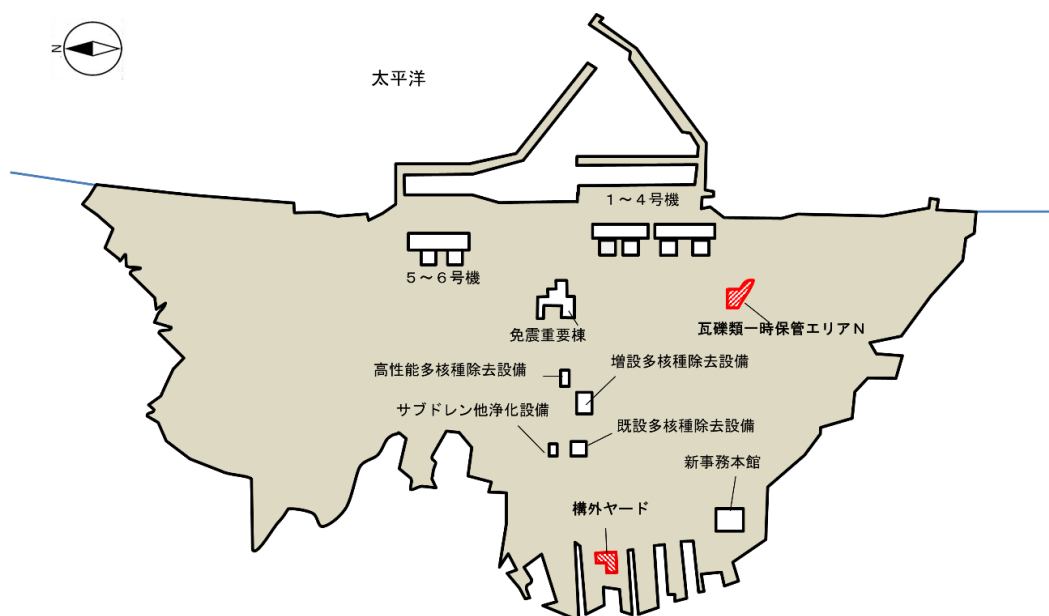
1号機使用済燃料プールには392体の燃料が保管されており、東京電力は、より安定した冷却及び保管が可能な共用プールに搬出することを目的に、燃料の取り出しを計画している。

燃料の取り出しに先立ち、原子炉建屋を覆う大型カバーを設置し、その内部で瓦礫の撤去、床等の除染及び遮へい体の設置を実施した上で、燃料取扱設備を設置する計画である。

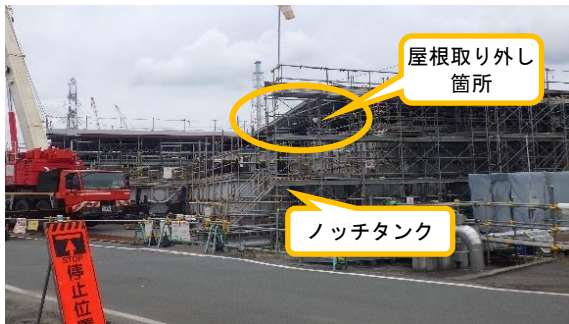
大型カバーは、被ばく線量の低減等を目的として、福島第一原子力発電所の管理区域外にある構外ヤードにおいて地組を実施し、ブロック単位で1号機原子炉建屋へ運搬・設置する工法を採用している。

本日は、構外ヤードにおいて、作業の進捗状況及び安全対策の実施状況等について確認を行った。（前回確認：[令和7年6月20日](#)）

- ・構外ヤードには、可動屋根が8ブロック仮置きされていた。可動屋根は全8ブロックで構成されており、いずれのブロックも概ね完成していた。（写真5）
- ・可動屋根を構内へ運搬する際に使用する架台の組立作業が進められていた。また、可動屋根を運搬するための運搬車が仮置きされていた。（写真6）
- ・高所作業においては、手すりや下さん、ネットの設置により、作業員の転落及び資材の落下防止対策が講じられていた。また、作業員は墜落制止用器具を着用していた。（写真7）
- ・確認した範囲において、設備の破損や資機材の散在等は認められなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1－1)
エリアN外観
※南西側から撮影



(写真 1－2)
エリアN外観
※北西側から撮影



(写真 2)
ノッチタンク上部での作業状況



(写真 3)
クレーンの設置状況



(写真4)
ノッチタンクの保管状況



(写真5)
可動屋根の仮置き状況



(写真6-1)
運搬架台の組立作業の状況



(写真6-2)
運搬車の仮置き状況
※可動屋根を運搬する際は、運搬車
の上に運搬架台を設置し、その上に
可動屋根を載せる。



(写真7)
高所作業の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。